

やぶきがはら
矢吹ヶ原は平らな土地ですが、川よりも高く台地になっているところでした。人々はため池をつくって少しずつ台地を切りひらいていました。



矢吹ヶ原全体に水が引ければ、人々は安心して田畑のしごとができるのに。

湖をつくる考え



星吉右衛門

「矢吹ヶ原に水を引こうとはじめに考えたのは、矢吹の星吉右衛門ほしきちう えもんという人でした。」

先生が写真を見せてくださいました。

吉右衛門きちう えもんは、阿賀野川あがのを通過して日本海にそそぐ鶴沼川つるぬまをせき止めて、大きなため池をつくり、トンネルで隈戸川くまどへ流せば、矢吹ヶ原に水を引けると考えたのです。実さいにできるか、自分のお金を使って仲間なかまとしらべて、県にねがい出ました。しかし、県の許ゆるしは出ませんでした。1885年（明治18年）のことでした。

それでも、人々は水を引こうとする考えをあきらめずに、何度もおねがいしていました。

開かいたくのくろう—1931年（昭和6年）—

はじめは道路づくりや松の根っこほりでした。木の根ほりはたいへんでした。トラクターもなく、とうぐわだけでほらなければなりませんでした

「矢吹町史」より